

## 教員おすすめ図書コーナー推薦書

教員氏名	
永田 瞬 先生	おすすめメッセージ
<p>① 図書名：『ストライキ 2.0』</p> <p>著者：今野晴貴</p> <p>出版社：集英社                      ISBN： <u>4087211150</u></p>	<p>日本は労働争議件数の減少が著しいが、局地的にはストライキもしくはそれに準ずる労働者の戦い方が増えている。例えば、東京駅構内の自動販売機のストライキなどである。本書では、保育士の一斉退職、私立学校の教員ストライキ、佐野 SA でのストライキなど近年の労働者の抵抗の事実を具体的に取り上げながらも、健全な労働社会を作るための条件を考察している。ケア労働やサービス労働など 20 世紀型の労働現場とは異なる労働者が主軸となっている点に注意を促している。</p>
<p>② 図書名：『ファシズムの教室』</p> <p>著者：田野大輔</p> <p>出版社：大月書店                      ISBN： <u>4272211234</u></p>	<p>講義時間に、「ハイル、タノ！」と敬礼し、集団で白シャツとジーンズを履き、学内のカップル（もちろん仕込み）に対して「リア充爆発しろ！」と糾弾する。抵抗感ある学生も次第に高揚感を覚えていく。服従することの快感、責任を問われないことへのやりやすさ、を実感する。ここにファシズムの原型があるとす。大学におけるアクティブラーニングの実践としても、社会問題と人間の意識の関係を考える素材としても、役立つ本。期待を裏切らない内容。</p>
<p>③ 図書名：『日没』</p> <p>著者：桐野夏生</p> <p>出版社：岩波書店                      ISBN： <u>4000614401</u></p>	<p>ハイトスピーチ規制法ができ、共謀罪が適用される時代に、過激な描写を行う小説家が、表現規制の対象となる。反省を強いるため、療養所に送り込まれる。ひっそりとした地方の片隅でこうした出来事が起きているが、多くの人はこのことを知らない。近未来的な社会風刺がモチーフになっているが、最初から最後まで、とにかく怖い。細かな描写に読んでいてびくびくすることがあるが、ぐいぐい引き込まれる。主人公の意識や肉体が退化していく様子がなんともいえない不気味さをもつ。ホラー小説（！？）のようで、おすすめです。</p>